

7 プロジェクトとして取り上げなかった問題の考え方

数限りなくある 「地域や社会の環境問題」

生駒市に限らず、地域が直面している環境問題は数多くあります。さらには地域の問題は、地球規模の環境問題と無縁ではありません。資源やエネルギーの浪費、森林伐採、化学物質の放出、これらの行為も地球温暖化をはじめとした地球環境問題と密接な関係があります。

しかも、人によって環境問題に対する感じ方や関わり方も違い、「問題は数限りなくある」といっても言い過ぎではありません。それらの問題のなかで、どれが重要で、どれが重要でないという判断も簡単にはできません。ただ、すべての問題に対処できるわけではなく、それらの問題に対して、優先順位や軽重の判断をせざるを得ません。

大切なのは、問題の羅列ではなく、 「課題」と感じられるかどうか

生駒市の環境基本計画策定委員会においては、地域の問題の洗い出しから課題設定に至るまで22回も会議を重ねました。環境問題の学習やフィールドワークにより「地域の問題」を洗い出し、重要性や緊急性などを考え、「重要な問題」を絞り込みました。それら「重要な問題」を「解決・改善すべき課題」に置き換える作業をしました。

多くの回数を重ねて、問題をもれなく網羅することも必要ですが、単に羅列しただけでは意味がありません。大切なのは、その問題の解決・改善を「自分たちの課題」と感じることができかどうかです。会議ではこの点に力を入れ、何度も議論を重ねました。

市民の多くの声を反映して計画策定

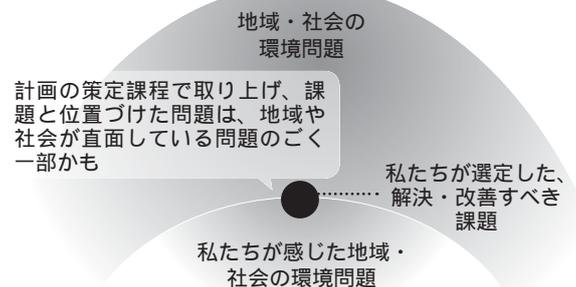
もちろん、策定委員の「思い」だけでなく、プロジェクトの立案中に中間案発表会を3度開催するなど、様々な意見をいただきました。これらの意見を受けて精査・修正したうえで計画が策定されました。

しかし、どのような手順を踏もうとも、「取り上げなかった問題」は生まれます。また、問題として認識はしても、以下のように「課題とはしなかった問題」もあります。

問題ではあっても、「課題」に設定せず プロジェクト化しなかったもの

以下の「問題」や分野については、環境基本計画策定委員会では「課題」としませんでした。

- ・ 家庭ごみ分別の周知徹底や、不法投棄の禁止など、従来から市や関係機関が取り組んでいる事業
- ・ 市の所管課が整備をすすめている事業（下水道やごみ処理施設などの整備、緑の基本計画に関係した緑化・自然保全事業など）
- ・ 市内の住民団体、学生グループ、企業等が、すでに自主的に取り組み、成果をあげている、または近い将来に成果が期待できる事業
- ・ 犬の糞、ごみやタバコのポイ捨てなど、マナーの問題として、環境問題と分けて考えた方がよいもの
- ・ 国や県が管轄し、市や市民の意向が反映しにくい分野に関する事業



本計画のプロジェクトは、呼び水

「課題としなかった問題は放置してもよい」ということではありません。この章で紹介した「課題解決・ビジョン実現のためのプロジェクト」は、必ず実行しなければなりません。これらのプロジェクトだけで課題が解決し、ビジョンが実現することはありません。本計画で策定したプロジェクトは、リーディングプロジェクトであり、これらのプロジェクトは、市内の多くの市民、団体、事業者のさらなる自発的行動を促す役割も担っています。

ビジョンは多くの主体の協働で実現する

環境問題は因果関係がとても複雑です。誰もが被害者であると同時に、加害者でもあります。ということは、多くの市民や事業者、市役所をはじめとした公的機関、学校などの行動がなければ解決・改善に向きません。

しかも、それぞれの主体が別々に行動していたのでは、効果や発展に限界もあります。あらゆる主体の協力と協働（パートナーシップ）をつくり出す必要があります。

推進組織の発展によって、今後取り上げる問題もある

本計画推進のために作られる推進組織は、本計画書に記載されたプロジェクトのみを実行するのではなく、社会情勢の変化や推進組織の力量向上に応じて、必要なプロジェクトを追加立案していきます。

本計画で取り上げなかった問題についても、必要なものについては、今後取り上げていきます。

